

令和5年度「公立大学法人広島市立大学の業務実績に係る評価結果」における評価委員会意見の反映状況について

区分	小項目（評価委員会による評価）		評価委員会意見の反映状況
	評価委員会による意見・コメント等	掲載頁	
学生の確保と支援	学生の確保（A）		
	○学生の確保に積極的に取り組んでいるが、以下の課題に対処することが必要であると考え。 ① 情報科学部での多い退学者数 ② 博士前期課程の入学者数の未充足及び博士後期課程における入学者数の継続的な欠員（国際学研究科、情報科学研究科）	21	① 学生の怠学の兆候等を把握し、きめ細やかに対応するため、学内システムでの学生の出席登録を義務化し、学修困難者の自動検知に向けたデータ収集を行うとともに、同システムで行った授業アンケートの結果を教員へ直ちにフィードバックした。学生が苦手分野等を振り返るための「フィードバックシート」の提供等にも取り組んでいる。 ② 国際学研究科では、従来の英語に加え、社会科教職課程の文部科学省認可を取得し、積極的にPRするとともに、社会人が履修可能な6時限開講科目の追加やオンライン進学説明会の開催、海外学術交流協定の締結による外国人留学生受入れの拡充等に取り組んだ。また、アドミッション・ポリシーを見直すとともに、令和8年度から博士前期課程一般入試の試験内容について、小論文及び口述試験から、専門分野に関する試問と面接に変更することとしている。 情報科学研究科では、アドミッション・ポリシーを見直すとともに、令和7年度から博士前期課程一般入試における筆記試験について、口頭試問に変更した。また、高等専門学校での大学院説明会の開催や、企業や広島県と連携した優秀な学生への奨学金の支給等を行っている。
研究	研究活動の活性化（B）		
	○科学研究費の採択件数・金額の増加を更に図ることが必要であると考え。	28	外部資金獲得推進に向けた各種支援制度を運用するとともに、セミナーの実施により教員の意識向上等を図った結果、科学研究費の令和6年度の申請率は73.4%となり、令和5年度実績の62.7%より10.7ポイント増加した。採択件数・金額の増加には至っていないものの、令和6年度の査読付き論文数の採択件数が172件となり、令和5年度実績の133件より39件増加するなど、研究内容の質の向上につながっている。 令和7年4月に採用した、研究資金の獲得支援、産学連携の推進、研究広報活動、研究戦略の企画立案及び行政や規制への対応を行うリサーチ・アドミニストレーター（URA）によるアドバイスも進めながら、引き続き採択件数・金額の増加に取り組んでいく。